

活動報告書

報告者氏名：馬見塚 淳

所属：別府支援学校石垣原校

記録日： 25年 2月 15日

【対象児（群）の情報】

- ・ 学年；高等部3年(訪問教育)
- ・ 障害名；ネマリンミオパチーによる体幹機能障がい
- ・ 障害と困難の内容；
 - ベットでの仰臥位の姿勢。姿勢を自分で変えることはできない。
 - 食事は経管栄養食
 - 会話は出来るが、気管切開のため、相手には聞き取りにくい。
 - そのため、長文になるとスマートフォンを使用し会話する。
 - 手先は器用でハサミなど扱うことができるが、少し長くなると作業はきつようだ。

【活動目的】

- ・ 当初のねらい；
 - 日頃、自宅から出て活動することのできない生徒にとって、外界との接触は他者が訪問しない限り、減多にないことである。そのため、パソコンをよく利用し、余暇を楽しんでいる。iPadはパソコンよりも操作に時間が掛からず、気軽に扱える点をいかして、本人の興味関心の幅を広げることで「生き甲斐」につながるきっかけ作りをねらいとして考えた。
- ・ 実施期間；6月～現在まで
- ・ 実施者；担任および授業担当者（3名）
- ・ 実施者と対象児の関係；
 - 3名のうち1名は担任。もう1名は月曜日の授業担当者。

【活動内容と対象児（群）の変化】

- ・ 対象児（群）の事前の状況；
 - パソコン、スマートフォンの操作は修得しており、友人ともメールや通話によるやりとりができることもあって、前年度、魔法のプロジェクトに応募した当初、本人はiPadにあまり興味がなかった。それよりもiPhoneに関心があったようだった。
- ・ 活動の具体的内容；
 - 本人の興味関心の高い社会的なクイズ問題やゲームなど、ユーモアに富んだアプリケーションを活用している。
 - 例「日本でQ」「世界史でQ」「空気読み」「豆しば」など・・・。
- ・ 対象児（群）の事後の変化
 - 知的に高い水準の生徒であるので、知識も幅広く豊富である。自分で疑問に思うことはどんどん情報収集し調べる好奇心の旺盛さがある。授業時に、iPadなどの機器の得意な授業担当者(社会科)と色々なアプリケーションを使って地歴に関するクイズやゲームなど積極的に取り組んでいる。昼夜逆転した生活を送っている生徒であるが眠気も飛び、積極的に授業に臨むようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

- ・ 主観的気づき；
 - 本生徒に関して、情報端末機器操作に熟知した担当者とのiPadの活用が望ましいと感じた。
 - 操作に関して、担任よりも生徒の方がよく理解しているため。
 - 楽しみ方としては、良いのかもしれないが「幅を広げるため」という目的には添っているものではない。
- ・ エビデンス（具体的数値など）
 - iPadの導入に当たっては、本人が積極的に気に入ったアプリケーションをインストールすることで、自宅での時間をiPadを活用することで楽しむ幅を広げることを目指した。その目指したところは、十分達成できている。自身の所有するスマートフォンとともにiPadを活用得意な授業担当者と積極的に活用し楽しんでいる。(週1回のペースで使用)
 - 担任はiPadを所有していないため、事前に色々なアプリケーションを調べることが出来ず、最近では以前より授業中の使用頻度が減少した。
- ・ その他エピソード（画像などを含めて）
 - 授業担当者のうち1名がiPadなどの機器に熟知しており、その担当者との授業時に主として活用していた。保護者との活用頻度は、導入当初に比べると低くなっているが、生徒が授業時に楽しんでいる様子を見て喜んでいた。
 - 今回、iPadを使用する機会を得て、導入前にはあまり関心を寄せていなかったiPadに、これまでと違う意識をもつことができた。卒業後にはiPadの購入を希望している。興味関心の幅がまた、一つ広がったように思う。